

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-049

名前：竹森 涼子

学会名：第 81 回日本放射線技術学会総会学術大会

開催場所：パシフィコ横浜

開催期間：2025 年 4 月 10 日（木曜）～4 月 13 日（日曜）

発表なしのため、1～3 を除く。

4.学会参加の感想

私は、今回初めて放射線技術学会に参加しました。医療現場で行われている研究や技術の最前線に触れる貴重な経験を得ました。特に私が関心を持つ核医学領域の発表を中心に聴講し、授業の内容とは異なり、実用化が目指される最新技術についての発表が多く、理解するのに多くの苦労がありました。

専門用語の意味が即座に理解できないことが多くあり、自分の知識の不足を強く感じました。この経験から、勉強方法が国家試験合格に向けたものに偏っており、実際に病院で診療放射線技師として働くための実践的な知識や用語を適切に理解することを意識して学びたいと思います。核医学分野の発表からは、この領域が他の画像検査と比較して高精度というよりも、定量性を重視した検査であることから、精度を高めるための様々な補正方法が研究されていることが分かりました。また、検査後の排水や廃液の処理といった放射線安全管理についても、多くの研究者が問題意識を持って取り組んでいることを知りました。

特に印象的だったのは、SPECT 検査に関する研究発表でした。従来の SPECT 検査では、相対的なカラーマッピングによって腫瘍の大きさや機能を評価していましたが、Gy 表記を用いて正確な放射線量を算出する方法の研究が進められていることに強い関心を持ちました。この技術が実用化されれば、核医学検査の精度がさらに向上し、治療計画の精度も高まることで、今まで治療が難しかった患者さんに対しても適切な治療が可能になるのではないかと期待しています。このような医療技術の進歩に貢献できることが、放射線技師としてのやりがいの一つだと感じました。

学会では発表聴講だけでなく、機器展示にも参加しました。そこでは、立位でも撮影可能な CT やさらには MR、CT、マンモグラフィー検診車など、最新の医療機器を実際に見学することができました。技術の進歩に伴い機器も日々進化していることを目の当たりにし、放射線技師として求められる知識も多様化していることに不安を感じました。しかし同時に、このような技術革新に適応できる技師になるために、就職後も継続的に学び、積極的に学会に参加していきたいと思いました。

今回の学会参加を通して、学生生活で学びを終えるのではなく、就職してからも積極的に

新しい知識や技術を吸収し続けることの重要性を実感しました。私たち放射線技師の知識や技術の不足が、患者さんの治療の幅を狭めてしまうことがないように、常に最新の知識を得る努力をしていきたいと思います。

また、学会で研究発表を行っている先輩技師の姿を見て、将来は自分も臨床現場での疑問や課題を研究テーマとして追求し、学会で発表できるような放射線技師を目指したいと考えようになりました。医療技術の進歩に貢献するためには、日々の業務の中での気づきを大切にし、研究マインドを持って取り組むことが重要だと感じています。

このような学びを得られた今回の学会参加は、私の放射線技師としての大きな転機となりました。今後も積極的に学会や研修会に参加し、常に向上心を持って患者さんのために最善の医療を提供できる技師を目指して努力していきたいと思います。